

東日本大震災後の経済活動

川北英隆

京都大学大学院
経営管理研究部 教授

東

日本大震災で被災された皆様に
心からお見舞い申し上げます。

日本経済は大打撃を受けたが、世界
経済はその日本を待つてくれない。こ
の象徴が株価である。日本の株価は大
地震が起きた三月一日の大引け直前
以降、急落した。これに対して世界の
株価はアメリカが牽引し、堅調である。

日本だけが取り残された形だ。
三月の経済指標が発表されるととも
に、大震災が経済活動に与えた影響度
合いが明らかになりつつある。このう
ち、貿易統計、鉱工業生産を見ておき
たい。

三月の貿易統計によると、輸出額は

前年同月比で二・二%の減少である。

二月が九・〇%の増加だったので、状況
が一変している。目立つのは、自動車
の輸出額が二七%と大幅に減少して
いることである。一方、輸入は同二・九%

の増加である。二月は一〇・〇%の増加
だったから、大きな変化はない。以上
の結果、輸出超過額は一、九六五億円に
とどまつた。二月が六、五三三億円の
輸出超過だったから、大幅に縮小して
いる。

なお、大地震の被害が全期間にわ
たつて影響した三月下旬の輸出額を前
年同期と比較すると、二三・一%の減少
だった。また、四月上旬の輸出は同
一九・四%の減少である。このように
前年比で一〇%台の縮小が続い
ている。

三月の鉱工業生産(季節調整
値)は前月比二五・三%のマイナス
となつた(図表)。二〇〇八年の
リーマンショック時を上回る、過
去に例をみない縮小幅である。内訳で
は自動車関連製品の打撃が大きい。ち
なみに乗用車の生産量は半減してお
り、日本経済の落ち込みの最大の要因
であることが明白になった。

今後、何が想定されるのか。
鉱工業生産に関する予測調査による
と、四月と五月は各月三%前後のゆる
やかな回復を見込んでいる。このペー
スでの回復が続くとすれば、今後五カ
月程度で、すなわち今年夏から秋にか
けで二月の水準に復帰する。また、今
回の震災で最大の影響を受けたトヨタ
の生産が正常化するのは今年秋頃だと
見込まれている。日本経済の生産活動
が元に戻るのは秋以降と考えるのがよ
うそうだ。

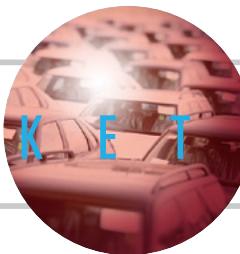
輸出入について、三月下旬から四月
上旬にかけての状態から判断すると、
四月の輸出は大幅に減少するだろう。
他方、輸入は増加が予想される。これ
は、原油価格をはじめとする一次產品
価格の上昇と、福島原発の事故を
受けた火力発電所向け燃料の輸
入量の増加が想定されるからで
ある。この輸出入
の状態からする
と、四月以降しば
らくの間、輸入超過の
状態に陥ると想定して
おくべきだ。

府の財政負担と国民の経済的負担が
増すことだけは確かである。

これらの負担増は、日本国債の信用
と経済活動に対してもマイナスの効果を
生み出しかねない。さらに、輸入超過
の状態がいつまで続くのかも懸念材料
である。輸入超過とは、国内から海外
へと資金流出することだから、国債の
購入者が国内に不足することを意味
する。以上から、日本銀行に対しては、
景気対策と国債による資金調達の円
滑化を兼ね、市場からの国債購入額を
増額し、一段の金融緩和を図ることが
迫られるだろう。

マーケット・アイ

M A R K E T EYE



●鉱工業生産の推移(季節調整値、前月比)

月	前月比 (%)
1月 (2010)	約 +5
2月 (2010)	約 +2
3月 (2010)	約 -1
4月 (2010)	約 -2
5月 (2010)	約 -1
6月 (2010)	約 -5
7月 (2010)	約 -1
8月 (2010)	約 +1
9月 (2010)	約 -1
10月 (2010)	約 -10
11月 (2010)	約 +2
12月 (2010)	約 +3
1月 (2011)	約 +2
2月 (2011)	約 +3
3月 (2011)	約 -25

資料:経済産業省「鉱工業指標」を用いて作成。